

北岳山行報告

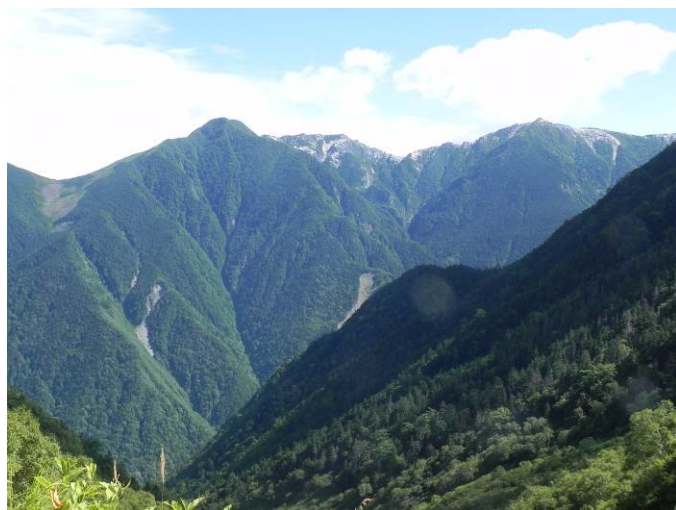
【山行日】2025年 9月 8～9日(月火)
【集 合】岩舟支所P AM 4:00
【費 用】マイカー1台 : 29,000円
【メンバー】CL:鈴木 SL吉田 飯野、嶋田
4日 晴れ 岩舟支所を出発し、広河原から
八本歯ノコルを経由し北岳山荘へ
岩舟支所P2:00＝芦安市営 P4:20/5:00＝広河原
5:50/6:00～白根御池小屋 8:30/8:40～二俣 9:10～
八本歯ノコル 12:10/12:40～北岳山荘 14:00

北岳へ登りたいとリクエストがあり、肩の小屋に泊ってピストンコースなら出来ると思い計画した。9月6日・7日(土日)で計画したが、肩の小屋の予約が取れず参加者に8日・9日でも良いか確認すると、OKとの返事で変更して計画する。

9月8日(月)に北岳山荘の予約が取れたので、3人は8日に間ノ岳9日に北岳を登る予定で計画した。岩舟支所を2:00に出発し芦安市営駐車場に4:20に着いたが、平日なので余裕で車を止めることが出来た。出発の準備をしたら予約した乗合タクシーに乗り、広河原に5:50に着いてトイレもスムーズに利用できた。



ストレッチを行って6:00に出発し、吊り橋を渡って広河原山荘脇から登山道に入る。すぐ先で大樺沢コースへの分岐に出るが、大樺沢コースは崩落の為通行止めで白根御池小屋へ向かった。皆さん元気で快調に登り白根御池小屋に計画より1時間早く到着した。これなら楽勝で間ノ岳にのぼれると思い、ここから3人は間ノ岳に向かって先行し北岳山荘で落ち合うことにする。白根御池の畔を進みすぐに草すべりへの道を右に分け、平坦な道からトラバース道を下って行くと二俣に出る。先行した3人が見えたが、我輩が付く前に出発して行く。ここから右に登ると右俣コースだが、我々は



左に八本歯のコルに向かって登って行く。大樺沢の左岸に付けられた急な登山道を登るが、陽射しが強く汗が吹き出してくる。急坂をジグザグに登り高度を上げて行き、右からくる大きな沢を渡るとバットレスの全体が見渡せる場所に出る。国内最大級の岩壁は迫力があり、良い撮影ポイントである。さらに登ると大樺沢を渡り、水が流れる中の急坂を登るようになる。灌木帯の道を登ると八本歯のコルへの登りとなり、岩壁に掛けられた木製のハシゴを登って行く。急なハシゴが連続し息が上がって、岩陰の日陰にもぐり込んで休憩し昼食をいただく。この後もハシゴ場が連続し、10個以上のハシゴを登り切ると八本歯のコルに出る。ハイマツ帯の見晴らしが良い場所で、風が心地よく疲れた体を休める。我輩の記憶ではここまで登れば北岳山荘まで楽勝と思っていたが、ここからが結構大変な行程であった。ヤセた稜線を右に進み、岩が重なる急坂を登ると長いハシゴ待っていた。

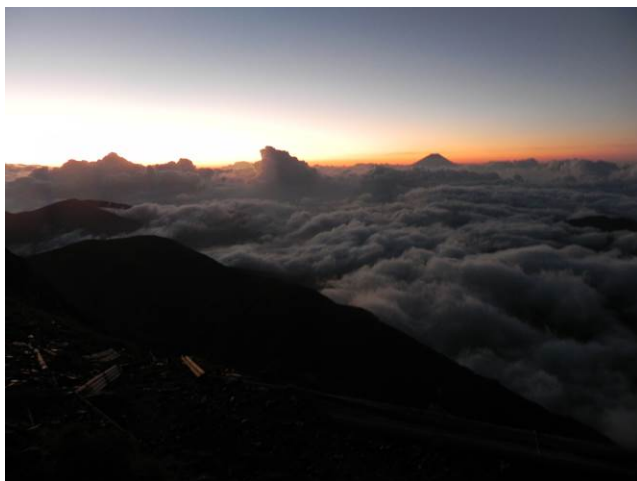


ハシゴを登り切るとさらに岩場の急登があり、ようやく平らな場所に出る。ここでひと休みして、さらに巨岩が積み重なった上を登ると分岐に出る。右に直上すると北岳への主稜線にでるが、我輩は左に北岳山荘に下る道を進む。北岳の南東斜面をトラバースして進み、危険な場所にはハシゴや手すりが付いているが結構手強い。トラバース道の左斜面はお花畑になっているが、ガスが掛かって来て視界が悪くお花畑を楽しめなかった。ようやく北岳山荘に着き、受付で部屋と寝床の番号を教えてください部屋に行く。なんと吉田氏が居るではないか。事情を聴くと八本歯のコルへの登りで苦戦し、八本歯のコルからもペースが上がらず北岳山荘への到着が遅れた為、間ノ岳は断念したとの事。我輩が着替えた外ベンチに移動し、いつもの反省会が始まる。ビールで乾杯し今日の登りの話をするが、間ノ岳に登れなかったので話は盛り上がらない。飯野さんの顔色が良くないので夕食まで部屋で休むように勧め、女性達は部屋に戻って休むことにする。我々もビールがあまり進まず、2本で止めて部屋に戻って休むことにした。5時から夕食になり食堂で夕食をいただく。明日は天気良さそうなので予定通り4:00出発と皆さんに告げ、部屋に戻って明日の早出に備えて早めに就寝する。

5日 晴れ 北岳山荘を4:00に出発し北岳山頂から御来光を迎え、北岳肩の小屋から草滑りを下って広河原へ下山し芦安市営Pから岩舟支所へ帰着する。

北岳山荘 4:00～北岳 5:20/5:50～北岳肩ノ小屋 6:30/6:40～小太郎尾根分岐 7:00～白根御池小屋
8:30/8:50～広河原 10:40/10:45＝芦安市営P 11:20/11:30＝金山沢温泉 11:40/12:25＝道の駅「しらね」
12:50/13:00＝そば処「貴楽」13:05/13:45＝岩舟支所 P15:35

朝3時に起床し、出発の準備を整え朝食の弁当をいただく。トイレを済ませたら外に出て、ストレッチを



行ない4時に出発する。北岳山荘から間ノ岳と北岳を結ぶ稜線に登り、稜線上付けられた登山道を右に北岳に向かって進む。月とヘッドランプの灯りを頼りに、北岳に向かって緩やかに登って行く。吊尾根の分岐で小休止し、衣服調整と水分補給を行う。ここから傾斜がきつくなり、足元に注意しながら一步一步登って行く。

ガレ場の道をトラバースしながら登って行き、途中からは稜線に直上する道に変る。クサリ場を過ぎて稜線に出ると幾分明くくなり、茜色の空に富士山が黒く浮かんで見える。皆さんから「ウー～富士山が見える！」と歓声が上がり、ここから

は3人が先行して登って行く。大きな岩の稜線を登ると北岳山頂に出て、山頂で御来光を待つと真っ赤な太陽が昇って来た。御来光をカメラに撮っていると、皆さんも夢中でスマホに収めていた。陽が昇り反対側の雲海に北岳が映る影北岳が見られ、そこに自分の影が映るブロッケン現象を見ることが出来た。皆さん感動し自分の姿なのか手を動かして確認し、影の手が動くスマホに収めていた。しばらくブロッケン現象を楽しみ、山頂標識で記念写真を撮ったら展望を楽しむ。

富士山に次ぐ3193mの展望は素晴らしく、富士山はもちろん間ノ岳や農鳥岳、甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳等見ていて飽きることが無い。展望を楽しんだら下山開始し、名残惜しいが山頂を後にし肩ノ小屋に向かって降りて行く。甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳を見ながらの下りは素晴らしいが、岩場の急坂を下るので足元を見ながら慎重に下って行く。



下り切った広場に肩ノ小屋が建ち、「北岳に來ただけ」の看板の前で記念写真を撮る。小屋の前のベン



チで休憩し、トイレを済ませ行動食や水分を補給したら下山開始する。

小屋から小太郎尾根分岐までは緩やかな稜線を歩き、甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳の絶景を楽しみながら下って行く。分岐から右に急坂を下るようになり、ハイマツのザレた道を下って行く。直ぐに分岐に出て、右に下ると右俣コースだが、左に草すべりコースを下って行く。標高差500mを一気に下るコースで、疲れた足には堪える下りである。ザレた下りで石車に乗らないよう慎重に下り、傾斜が緩くなると白根御池が見えてくる。二俣からの道と合さり白根御池

の畔を行くと白根御池小屋に着く。大休止してトイレを済ませ、行動食や水分を補給する。吉田さんの知人が待っていて、吉田さんとしばらく会話が弾んでいた。ここからは往路を下るので、気分的には楽に下れる。緩やかにアップダウンを繰り返してトラバース道を下り、途中から東に延びる尾根を下って行く。急坂の下りが続き、膝に負担が掛かって休憩を入れる。大樺沢コースとの分岐まで下ると傾斜が緩くなり、沢沿いに20分程下ると広河原山荘に出る。山荘の先で吊り橋を渡り、道路を右に進むとアルペンプラザに着く。バス停前でタクシーが待っていて、我々は4人なのですぐに4人乗りタクシーに乗り芦安市営Pへ向かう。待ち時間なしで超ラッキーである。芦安市営Pに着いたら靴を履き替え、荷物を積み替えたらず帰路につく。すぐ先の金山沢温泉で汗を流し、タクシーの運転手さんに聞いた蕎麦屋に行くが、火曜日で定休日だった。この地域の飲食店は火曜日が定休日営業して無く、仕方がないので道の駅「しらね」に行くが飲食店が無い。お土産にシャインマスカットを買い、レジのおばさんに飲食店を聞くとお蕎麦屋さんを教えてくれた。道の駅の直ぐそばの店で、小さな蕎麦屋だが時間が遅いので入ることが出来た。更科蕎麦の天せいろをオーダーし、ようやく昼食をいただくことが出来た。お土産もゲットしたし、お腹も満たされたので岩舟支所へと向かう。白根 IC から中部横断道に入り、中央道から圏央道を進んで予定より早く岩舟支所に帰着した。

